

平成19年度卒業式 - 告辞 -

皆さん、卒業おめでとう。皆さんにとって琉球大学で学んだ4年間、医学部は6年間ですが、はどのようなものでしたか？楽しかったこと、嬉しかったこと、たくさんの友人が出来たこと、時には失敗したことなどもあったのかもしれません。色々な思い出が数多くあることでしょう。今日の卒業の日まで皆さんを支えて下さったご両親を始め多くの方々への感謝する気持ちも忘れないで下さい。琉球大学を卒業したということが皆さんの人生の歴史の中にしっかりと記憶され、琉球大学は皆さんの母校となります。皆さんが学んだ琉球大学はどのような理念のもとに、そして学部学科はどのような学問を発展させ何を目指しているのか？入学以後今日の卒業までの間にしっかりと学び身につけたことと思います。

皆さんが学んだ琉球大学は亜熱帯気候で島嶼性を持ち、固有の歴史や文化を持った地域にあります。そして歴史遺産が多く、美しい景色や親切な人達が多いことなどから国内有数の観光地として人気が高くなっています。他方、人々はのんびりし、仕事のスピードが遅いだとか、さらに工業化された豊かさを持つ本土や西欧の加速化された価値観や判断基準からみますと、失業率の高さなども指摘されています。工業化文明社会の本土型の判断基準でみるとそうかもしれませんが、しかし、そのような現在の経済構造のもとでの加速化された生産や消費のパターンからは格差の広がり、環境破壊、地球の温暖化などが進んでいます。もちろん新しい能力の開発や生産性の向上などが期待されますが、時間をかけてしか経験できないもの、友情や教育さらに人間にとって重要な社会関係などは失われています。人間の絆や子供を育てることなどはすべて時間をかけてゆっくり行う必要があります。ゆっくりということや遅さとは鈍さではありません。思考の豊かさ、思慮の深さにつながることです。今申し上げましたように地球温暖化や格差などが現在の大きな問題になってきています。しかし先進国の理屈による簡単な調整だけで解決されるものではありません。琉球大学は従来の視点を逆転させ、沖縄の思考の主体性をとりもどし、外部からの思考に左右されるという歴史に終止符を打ち、琉球大学独自の学問を発展させつつあります。沖縄やアジアや太平洋島嶼地域など南の柔らかな思考や視点、豊富な学識が今後の社会に必要なようになってくると思います。そのような観点から琉球大学では各学部が世界をリードする研究、例えばCOEに採択されているアジア太平洋に広がる研究やハワイ大学やスミソニアン博物館などとの連携のもとに進められている研究、さらに自然災害に対する防災研究など沖縄やアジア太平洋地域に役立つ多くのすぐれた研究を進めています。そしてそれらに支えられたしっかりした教育が行われています。皆さんは沖縄の美しい自然や文化の中で学んだことを誇りに思ってください。きっと色々な場面で役に立つでしょう。皆さんは琉球大学で学んだ真実を見る目、自然や環境を大切にし、人の絆や生き物たちを慈しむ心を持ってこれからの長い人生の旅に出発することと思います。皆さんの出発に際しこれからの活躍に期待し花むけの言葉とします。

平成20年3月24日
琉球大学長
岩政輝男